

◆ 児童科学教室



小学5・6年生を対象とした2年間継続の講座で、受講生は5年生時に募集しています。今年度は5・6年計122名の児童が4月から2月にかけて、泉・長田・明成の3教室で実験や自由研究に取り組

◆ サイエンスクラブ

中学生が対象の年10回の科学教室で毎年受講生を募集しています。今年度は、市内の10校から集まった41人の生徒が活動しました。指導員の先生方による実験や自由研究のほか、大学で最先端の実習にも取り組みました。夏には糸魚川周辺でフォッサマグナミュージアム等で研修を、秋には小松市の尾小屋鉱山資料館や石の文化施設で研修を行いました。



◆ 算数・数学チャレンジクラブ

小学5・6年生と中学生を対象とした算数・数学の教室で、受講生は5年生になるときに募集しています。令和6年度は、小学生157人と中学生100人が受講し、学校での授業とは異なる視点から「算数・数学する心」を育みました。各講座では、自分の頭で考え口頭で説明するだけでなく、時には歌ったり、手足を動かしたり、体全体を使って算数・数学を楽しむ姿が見られました。

明星大学客員教授の細水保宏氏の特別講座「もしも〇〇でなかったら?」では、羽や首や尾だけが長い鶴の折り紙に挑戦し、上越教育大学教授の高橋等先生の特別講座「ハノイの塔の原理を知る」では、ハノイの塔のゲームを通してその根底にある数学的原理を探究し思考力を高めました。どの講座も夢中になって考え、真剣に取り組むクラブ員の姿が見られました。



【クラブ員の感想】

もしも折り紙が正方形でなかったら、どんな折り鶴ができるのかな?に取り組みました。ひし形で折ると羽が長く首と尾が短い鶴と、その反対の鶴が折れました。タコ形で折ると片羽が長い鶴、尾が長い鶴、首が長い鶴が折れて

びっくりしました。「もしも〇〇でなかったら」という考え方は、何でそうなるのかなという考えたり交流できたりして、細水先生のおかげで、算数をもっと好きになることができました。



【クラブ員の感想】

この講座でハノイの塔の存在を知りました。実際にいろいろなものを使って結果を確かめることができ楽しかったです。ハノイの塔も紙テープの半折も表にしてみるとすぐに数の関係がわかりました。そして両方とも数の増え方が一緒だと気付いた時には驚きました。高橋先生の優しくわかりやすい教え方で、身近なものに数学のおもしろさが詰まっているのを発見できて嬉しかったです。

高橋先生の優しくわかりやすい教え方で、身近なものに数学のおもしろさが詰まっているのを発見できて嬉しかったです。

科学 研究 作品展

子どもたちが主に夏季休業期間中に取り組んだ研究作品を下記の期間展示しました。市内小中学校から小学生810点、中学生178点の計988点の応募がありました。期間中は1,383名の参観者で賑わいました。

場所

長土塀青少年交流センター
4F大集会室

期日

11月9日(土)～17日(日)



【審査員の講評から】

■小学生

どの学年も、身近な自然の事物や現象から生まれた疑問を研究テーマに繋げている作品が多くみられた。低学年では子どもらしい独創的な発想で研究に取り組んでいる。高学年になるにつれ、多面的な検証や複数回のデータ収集等、より科学的な研究になっている。記録写真だけに頼らず、しっかりとスケッチしている作品に良いものが多い。

■中学生

身の回りの現象や学習内容から芽生えた、好奇心や探究心に基づいた研究や自然災害・環境問題に関連付けた作品が多く見られた。

中には、小学生の時から継続し、時間をかけ、粘り強く観察、調査、研究している作品もあり、自然科学への関心や研究への意欲の高さを感じられた。



科学 研究 口頭発表会

子どもたちが自分の研究を口頭で発表する場を設け、子どもたちの発表能力を育成するとともに、発表へのコメントやアドバイスを更なる発展させる応用力を育成するために行っている事業です。本年度から1日開催になりました。

発表は小学生10名、中学生8名の計18名が参加しました。

（公財）大阪コミュニティ財団／石黒美代子・まさみ
青少年育成基金助成事業

場所

長土塀青少年交流センター
3F学習室

期日

12月8日(日)



【参加者、保護者の感想から】

- みんな、自分の夢や目標に向けて、面白く個性的なやり方で研究していて素晴らしい。
- 疑問をいろいろな方法で実験し、結果が出てなくても次につなげようとしているのが、すごいと思った。
- 全員が違う分野や視点の研究を行っていたので、新たに学ぶことがたくさんあった。
- 審査員から質問されて、教えてもらったことが、次の自研究をする時の参考になると感じました。
- 発表後に、大学の先生だけでなく、小学生や中学生からも感想がもられたのは良かった。(保護者)
- 8分でまとめることは難しいが、何を伝えたいかを再考し、理解を深めることができたと思います。(保護者)

子ども科学スタジオは未就学の年長児から小学校1・2年生の児童を対象に、科学実験や自然観察を毎週土曜日の午前と午後の2回ずつ開催しています。

活動は毎週異なる内容で設定され、スタジオでは身近にある物を利用したものづくり、それを使った科学遊びや科学的な内容についての実験などのほか、野外での季節に応じた自然観察会も開催しています。

内容としては、音・光・空気・水・力・化学変化・電気などによる身の回りの現象や、動植物・化石・宇宙などをテーマとしたいろいろな実験や観察を行っています。これらを通じて、科学や自然のおもしろさ・不思議さを感じ、親しみを持ってほしいと願っています。

今年度は年間43日を計画していましたが、悪天候により野外活動が1日中止となりました。参加者は1,452組2,904人となりました。



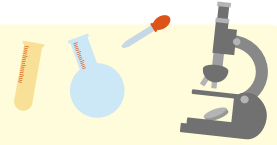
【利用者の感想】

■子どもたちから

- こんなおもしろい子どもかかスタジオがあるなんてびっくりしたしおもしろかったです。またいえてもやりたいです。
- わくわくしました。いろいろはっけんできました。こうさくがたのしかった。また、こうさくをしたいです。かかすたじおにまたきたいです。
- コントローラーがじぶんでつくれるなんてびっくりしたし、つぎはどんなおどろくことにあるかがたのしみです。
- とてもたのしかったです。とくに、ぶきみなモナリザがいちばんたのしかったです。またきたいです。あと、いろいろのふしぎをみるのもたのしかったです。

■保護者から

- 初めての参加でしたが、あっという間だったようで、次回も楽しみにしています。同じものを兄弟にも作って遊ぶそうです。楽しい時間をありがとうございました。
- 最初から最後までずっと楽しそうでした！大人も楽しかったです。実験と工作、両方できて嬉しかったです。また来たいです！
- 大人もへえーっと思える種がたくさんあり、勉強になりましたし、楽しめました。ありがとうございました。ペンや色も奥深いですね。子どもも喜んでいました。
- 普段の生活で目にしない植物を知れました。野外活動はおもしろいです！非日常体験大切ですよ！



◇ 子ども科学スタジオ・オープンスクール

就学前年長児や小学生を対象とした校外活動の一環として、平日に子ども科学スタジオで実験教室をおこなっています。長土堀青少年交流センター1F交流活動室で1時間程度の理科実験や工作を行います。今年度は10団体の申込があり、「化石レプリカをつくろう」や「空気であそぼう」等の活動を行いました。台湾の小学校との交流もしました。



【利用者の感想】

- お友達と協力して作り合っていて、子ども達も喜んでスクールに参加していました。レプリカ作り、男の子はもちろん、女の子もすごく夢中で作っていました。園に帰ってからも何度も触っていたり、お迎えのお母さんにすぐに見せている子もいました。
- 楽しい時間をありがとうございました。いろいろな段階で飛び方が変化することに驚いて喜んでいましたように思います。子ども達がわくわく興味を持てるような声掛けが参考になりました。

科学相談

科学研究に興味を持つ小学3年生から中学生を対象に、研究の進め方などをサポートする「ジュニア科学者養成講座・中期」は小学生3名中学生が2名が受講しました。金沢大学の大学院生と大学生から7月～8月の期間、8単位24時間の指導を受け、研究を進めました。市の作品展では優秀賞1名、優良賞1名、佳良賞3名、県の優良賞1名、「自然科学観察コンクール」で秋山仁特別賞1名という結果を残しました。

また、学校に出向き、児童の科学研究の相談を受ける「出張科学相談」を9校で延べ11回実施し、夏休みの研究の計画やまとめに役立ててもらうことができました。なお、11回中の1回は夏休み前に教員の校内研修として実施しました。

【参加者、保護者の感想から】

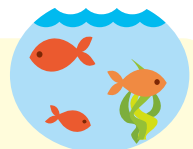
- 去年の研究より面白かったし、ページ数も去年の2倍以上の量になりました。次の研究にもこの経験を活かしたいです。(受講生)
- 本人が講座を希望したときは続けられるか半信半疑でした。研究を進めていくうちに、研究が楽しいというようになり、本人自らが考えて進めていくようになったのが嬉しく、子どもの成長を感じられました。(保護者)

出前科学スクール

こども園や小学校などの団体からの依頼を受け、年長児や小学生を対象とした出前型の実験教室を行っています。今年度は、33団体からの申込があり、計46回開催しました。スライムづくりや空気遊び、ミニ水族館づくりなどの実験や工作を通じて、延べ1,000人以上の子どもたちに科学の楽しさを伝えることができました。

【利用者の感想から】

- 子どもたちに教えるだけでなく考える時間や答える機会を設けていただき、子どもたちが主体となって進められていると感じました。
- ミニ水族館づくりは「魔法」というワードにひかれ、「ママに魔法を見せてるんだ!」と家に帰ることを楽しみにしていました。



特別事業

ジュニア科学者養成講座 長期

子ども科学財団既存事業の児童科学教室、サイエンスクラブ、科学研究作品展等に参加している小・中学生の中から、これまでに優れた研究成果を残し、さらに深く研究したいという意欲を持つ子どもたちをバックアップする取り組みを実施しています。

今年度は小学生5名、中学生1名が受講しました。受講生は、5～8月にわたって、金沢大学の大学院生や大学生等から12単位36時間の指導を受け、各自の研究に取り組みました。

今年度の受講生の科学研究作品は、市作品展において優秀賞2点、県作品展では優秀賞1点。また、全国展では「自然科学観察コンクール」で5点が予備審査を通過。そのうち2点が佳作に入賞という成果を収めました。



算数・数学オリンピック支援講座

毎年6月に行われる算数オリンピック検定や広中杯などに挑戦する志の高い児童・生徒を支援する講座です。本年度は6月までに4回実施し、冬に特別講座を実施することで終了となりました。算数・数学の基礎を駆使し、応用を極めた超難問に挑みました。今年度の算数オリンピックトライアル検定では、2人がファイナルに進出しました。また、石川県でトップの成績となる「奨励賞」を4部門の内、3部門で受賞しました。

【特別講座の内容】

▶2月16日(日)

算数オリンピックにふれてみよう講座
3つの部門で2024年度の問題に取り組む。

▶3月8日(土)

算数オリンピック解法テクニック講座
講師 栄光学園講師
いもいも塾主宰 井本陽久



産業・文化・教育から科学を学んでみよう

金沢の産業や文化、教育の中から身の回りにある科学を見つけ出し、科学だけでなく郷土の素晴らしい一面を学ぶ機会を設けています。

公益財団法人宗桂会様にご協力いただき、加賀象嵌のオリジナルキーホルダー作りを通して、金沢の伝統工芸に潜む科学的要素を楽しく学びました。



SSH(スーパーサイエンスハイスクール)教室 金大附属高連携教室

SSH認定校である金沢泉丘高校及び金沢大学附属高校と連携し、理科や数学分野で特色のある体験教室を主に中学生向けに開催しています。

令和6年度の金大附属高連携教室は6月に開催し、数学チャレンジクラブ員と一般公募の中学生5人が高校生と数学を通じて交流しました。また、2月に開催したSSH教室では、41人が参加し、高校生が企画立案したサイエンスゲームに挑戦しました。

【参加者の感想】

■SSH教室

高校生の作成した問題はとても難しかったです。問題が解けた時の達成感は凄かったです。

難しく面白い問題や色々な仕掛けを作るのは大変だったと思います。このようなイベントができる高校生を尊敬しました。

■金大附属高連携教室

全体会で附属高校生が見せてくれた問題は全然わからなくて、いずれ私もこんなのを解かなければならないのかなと思いました。

学年別の講座で、附属高校の先生や生徒の皆さんにわかりやすく教えてもらって、私もこんな素敵な高校生に、いずれは先生になりたいと思いました。



交流事業

科学やものづくりへの興味・関心が、より多くの子どもたちに広がることを期待し、企業や諸団体等の実施する社会貢献活動に協力した科学教室を開催しています。今年度は日機装(株)と連携してテクノパーク科学教室「腎臓はどんなはたらきをしているの?」を開催し、12名の小学生が人工腎臓等を使った実験を行いました。



この財団だよりに掲載している事業への参加者数などの資料は財団ホームページに資料編として掲載しております。併せてご覧ください。

財団では寄附を募集しております

当財団は、主に金沢市に在住する児童生徒等の課外における科学的な活動などを支援するとともに、その普及・発展に努め、科学の心を育むことを目的に、「児童生徒等を対象とした課外での科学に関する活動」、「児童生徒等の科学の心を育てるための普及啓発活動」、「科学に関する諸団体や国内外の児童生徒等との交流活動」を柱とした事業を実施しています。また、これら事業の高い公益性が認められ、「公益財団法人」として、平成23年4月より運営を行っております。

事業に必要な資金は様々な団体からの助成金や事業参加者からいただく参加費、そして財団が所有する限りある基金を取り崩して行っております。教育普及活動は一朝一夕で成果のあがるものではなく、

長期にわたり継続していくことでその効果が発揮できるものと認識しております。こうした意義ある事業を今後とも継続発展させ、一人でも多くの子どもたちの科学の芽を育てていくためには、多くの皆様方からの温かいご支援が不可欠と考えております。なお、公益性の高い団体へ行われる“寄附”はその寄附者に対し、税制上の優遇措置が認められています。財団では、多くの方々からのご支持、ご寄附をいただき、もっと多くの子どもたちに事業へご参加いただける環境づくりのため前進していきたいと考えております。以上、当財団の事業活動にご理解とご賛同をいただき、是非ご寄附をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

金沢子ども科学財団だより

第22号

令和7(2025)年 3月発行

公益財団法人 金沢子ども科学財団

〒920-0865 石川県金沢市長町3丁目3番3号

Tel: (076) 221-2061 Fax: (076) 221-2062

メールアドレス kodomokagaku-z@kanazawa-city.ed.jp

ホームページ <https://kodomokagaku.or.jp/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/kodomokagaku/>



その他詳しくは、お電話でお問い合わせもしくは、財団ホームページをご覧ください。



金沢子ども科学財団

検索